



Good News for Japan **とぎのこえ**

そばにおられる神様 ケネス・メイナー



わかってくれる存在

一人の少年と、商店主のお話です。ある商店のドアに、「子犬売出し中」という貼紙がありました。ある日、一人の少年が、商店主におさるおさる尋ねました。「その子犬ついでいくらで買えるの?」

「百ドルから二百ドルかな?」少年はポケットから、数枚の小銭と紙幣を取り出し、「五ドルあるよ。ちよつと見てもいい?」と聞きました。商店主が笑顔で口笛を吹くと、一人の女性が、五匹のかわいい、ちよつちよつ毛玉のような子

犬を従わせて少年のほうに走って来ました。ところが、その中の一匹が、仲間からだいぶ遅れてついて来ようとしていました。少年はその一匹を見つけると、主人に、「足が悪いの?」

と聞きました。主人は、その子犬には足の関節に障がいがあり、生涯麻痺に苦しむだろう、との獣医の診断を告げました。それを聞く少年は、目を輝かせて、「この犬が買いたい!」と言いました。「いやいや、この犬はだめだよ。もしどうしても欲しいなら、君にあげよう。」主人が答えると、少年は、

かなり怒った様子で、主人の目をまっすぐ見上げ、「僕は、ただで欲しいとは思ってないよ! この子犬もほかの犬と同じ価値があるとと思うんだ。でも、今五ドルしかないから、毎月五ドルずつ払いに来るよ。」主人は、言い聞かせるように、言いました。

「この犬は、君と一緒に走ったり飛び跳ねたり、遊んだりできないんだよ。わかってるのかい?」ところが、少年は主人に近づくと、ズボンのすそを高くめくり上げ、金属製の補助具で支えられた自分の足を見せたのでした。「僕も上手に走れないんだ。この子犬には、子犬の気持ちを知ってくれる人がいたほうがいいんだよ。」

私たちが理解する方

私たちは誰もが、人生において、そばにいて、愛し喜んで理解してくれる存在を必要としています。いつでも知っていてくれ、励ましてくれる存在です! そんな存在があなたにはいますか? ちよつと考えてみましょう。

そう、神様です!

イスラエルの王であったダビデは、詩編一三九編に、

神様は、私たちが知っておられ、理解しておられ、私たちの行動のすべてを知っておられる、と書いています。神様は離れた所におられる神ではありません。この世界は、神様によって創造されました。神様のおられない所、神様から遠く離れた所など、どこにもないのです。神様は、この世界の初めから私たちのすべてを知っておられ、私たちの思考・思想や発展の只中におられるのです。

人間は、偶然の産物ではなく、神様によって、意図と選びによって創造されたものです。神様と人間の関係は、神様によって人生が侵害されるといったものでも、秘密が記録されたり、漏洩されたり、といった独裁者的に支配されるものでもありません。

神様は、私たちとの親しい関係を望んでおられます。それは、他のどんな関係にも勝つて、緊密なものなのです。神様は、私たちを深く知り、理解し、愛し、受け入れてくださっています。この神様との親しい関係

を知るならば、誰でも、ダビデと共にこの大いなる真理を心から喜び祝い、すばらしい神様を礼拝することができます。どうやって? 神様にお願ひしましょう。あなたも、この神様との親しい関係に生きることが出来ます。どうやって? 神様にお願ひしましょう。「親愛なる神様、どうか私を理解し、受け入れ、愛してください。あなたを私の神として信じます。あなたの独り子イエス・キリストが私のために死んでくださった、三日目に復活され、今も生きて私の祈りを聞いてくださることを信じます。今日、イエス様を私の人生の主として、これからずつと私の心をご支配くださり、治めてくださる方としてお迎えいたします。」

神様に願うなら

あなたも、この神様との親しい関係に生きることが出来ます。どうやって? 神様にお願ひしましょう。「親愛なる神様、どうか私を理解し、受け入れ、愛してください。あなたを私の神として信じます。あなたの独り子イエス・キリストが私のために死んでくださった、三日目に復活され、今も生きて私の祈りを聞いてくださることを信じます。今日、イエス様を私の人生の主として、これからずつと私の心をご支配くださり、治めてくださる方としてお迎えいたします。」

どうか私たちを助けてくださる聖霊をお送りくださり、私の残る人生において、あなたに喜ばれる生き方ができる方にしてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」
救世軍士官(伝道者) 司令官

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

回心～挫折～信仰復興へ

— 経験した一つ一つが必要な出来事だった —

加藤 信一



クリスチャン・ホーム

私は、救世軍の士官（伝道者の両親のもと、四人きょうだい）の長男として生まれ、育ちました。小隊（教会にあたる）が家という環境で、小さい頃は、日曜学校で聖書を学び、信徒の方々にかわいがられて、楽しく走り回っていました。

小学生になると反抗期に入りましたが、それでも、日曜学校には出席していました。けれども中学生になると、反抗が加速し、両親の信仰に従う必要はない、自分は自分、と考えるようになりました。日曜学校はもちろん、小隊でおこなわれる礼拝や様々な集会に出ることもなくなりました。

罪の自覚

そのような生活になって

しばらくして、とてもショックなことが起こりました。私の親友の一人がいじめに遭っていました。私もいじめられていたのですが、彼女のほうがもつとひどいものでした。ある日、いじめのリーダーが、授業中、彼女の背中に貼るよう、と悪口を書いた紙を回してきました。私は彼女の後ろの席に座っていました。その紙が回ってきた時、私はそれを彼女の背中に貼ったのです。こうしなければ、自分もますますいじめられる、と、自分のことしか考えられませんでした。親友の悲しさ、苦しさを知らないから……。

この時、初めて、「罪」というものを意識しました。それまで、親に反抗こそすれ、周りに迷惑をかけている訳でなく、「自分はいい子だ」と思っていました。

でも、自分の中にあるどうしようもない醜さを自覚し、大きなショックを受けたのです。

回心

その頃、「死」というものがあるようにもなっていました。死んだら自分はどうなるのか。漠然とした、しかし大きな不安が押し迫ってきました。「罪」「死」—どれも自力では解決できないものです。それで、聖書にその答えを探しました。小さい頃から聖書は身近にあり、たくさんお話も聞いていました。自分の意思で、真剣に向き合うようになったのです。

救世軍の集会の中で、「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇氣を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネによる福音書16章33節)の御言葉が与えられました。知識として聞いていた御言葉が、力をもって私に迫ってきました。二千年前のイエス・キリストの十字架が、私の罪を取り去るための身代わりの死だったことが、実感として迫ってきました。そして、恵の座という祈りの場所で、神様を信じて従う決心をしました。中学二年の時でした。

伝道の喜び

その後は、救世軍でおこなわれる集會に積極的に出るようになりました。高校生になると、ギターやラッパを持って近くの公園に行

き、賛美歌を歌ったり演奏したりして、子どもたちに伝道するようになりました。時には石を投げられたりしましたが、一人でも多くの子どもたちに神様のことを伝えたい、その思いに燃えていました。

小隊には、尊敬できる信徒の方たちがたくさんいました。皆、それぞれの立場で伝道していました。その背中を見て、その方たちのようにになりたい、と思っていました。

親元を離れて

やがて大学に入り、一人暮らしを始めましたが、物理的に小隊—親元から離れると、伝道に対する熱心さも薄れてきました。また、アルバイトをしなければならず、日曜日に礼拝に出ることも難しくなりました。やがて、ファミレス店員や警備員などのアルバイトを掛け持ちするようになり、とうとう、大学を中退せざるを得なくなりました。

その後、就職しました。新聞販売の仕事で、配達や契約取りなど、結構いい給料を取るようになりました。学生時代とは雲泥の差。贅沢のし放題でした。おいしい物を食べ、遊び回り、これまでの人生で一番幸せだ



青年のキャンプで (1996年。写真右)

挫折

けれども、そのような生活になって半年も経たないうちに、毎日が空しく、また不安に苛まれるようになりました。贅沢の歯止めがきかなくなり、自分でも恐ろしくなってきたのです。何をしてもこれでもいいと思うことがなく、不安で不安で、苦しい日々が続きました。そして、とうとう、死んだほうが楽だ、と思いつめるまでになりました。

ある日、マンションの屋上に行き、人生を終えようと思いました。いよいよ飛び降りようとしたその時、脳裏に家族の顔が浮かびました。笑顔にあふれた温かい家庭、ごちそうではないけれど、分け合って食べた食事のおいしかったこと……そこには人生で必要なものがすべてありました。(この家族を悲しませてはいけません、親より先に死んではだめだ!) 私の中で、何か

が大きく変わりました。しばらくして、六年半続けた新聞販売の仕事を辞めました。

新しい目標

その後、介護の学びをし、資格をとって老人ホームに勤めました。新聞の集金をしていた時、高齢の方の家に伺うと、喜んで応対してくださったり、中にはお茶を用意して待っていてくださる方もいらつしやいました。このような方たちが一生懸命働いてくださって今の日本があることを思い、高齢の方たちに喜ばれる仕事がしたいと心から願うようになったのです。老人ホームで五年間働きましたが、やりがいや覚え、人と関わる喜び、また、介護の楽しさも経験しました。

そのうち、施設で暮らしが守られていても、自由に外に出ることのできない方々がたくさんいるという現状に、ジレンマを覚えるようになりました。プライベートの時間に、外出を望む方に付き添ったりしましたが、限度がありました。また、高齢という理由だけでなく、障がいがあるために、行きたい所に行けない人もたくさんいることに気がつきました。そのよう

な方々の外出サポートをする仕事をしたい、と願うようになりしました。しかし、当時はそのようなことを専門にする職業は自分の周りになく、起業を考えるようになりしました。

結婚

妻とは、この老人ホームで出会いました。彼女は、栄養士として勤務していましたが、彼女は私の希望を理解し、やりたいことをやっていたらいい、と励ましてくれました。そこで、プロポーズはしたものの結婚を延期して、ホームを辞め、起業しました。

しかし、当時、この働きは従来なかったサービスだったため、チラシを何千枚も配りましたが、反応はほとんどなし。あつても一カ月に一件か二件……そんな状態が続く、一年弱やっただ頃、このままだと生活の目処がたたない。もう、やめよう」と、彼女にそのことを話しました。すると、「もう、あきらめるの?」と、厳しいひと言。彼女に背中を押されて、頑張ろうと腹をくくることができました。自分の可能性を信じてくれる人がいる—これは、大きな力でした。二年目に入ると、知り合

いから旅行会社の人を紹介され、大きな仕事が入ってくるようになりしました。また、一度利用された九〇パーセントの方がリピーターとなつてくださったこともあつて、起業して四年目に仕事も軌道に乗り、結婚することができました。妻は私を九年の間、待っていてくれたのです。

新しい展開

最初の頃は、経済的に余裕のある方々の介助の仕事がほとんどでした。旅行にしても外出にしても、利用される方が介助する人の費用を負担しますし、場合によっては、外出先や旅行先のバリアフリー度や利便性を調べるため、下見に行く費用も加算されるからです。介護保険は適用されず、百パーセント自費です。働きを進めるうちに、何とか、年金生活者の方や所得の低い方でもこのサービスが受けられるようにしたい、料金のバリアを下げたい、と

思うようになりしました。そこで、各地に同じ働きをする人を増やしていくことを考えました。現地在住の人であれば、下見の費用やホテル代を節約することができすし、海外旅行であれば、航空機代も含まれないので、費用をかなり低く抑えることができます。そのために、昨年の四月に一般社団法人「日本旅行介護士協会」を立ち上げました。そして、全国各地で十日間の研修会を開いて、同じ志をもつ方を対象に、スタッフの養成をおこなうようになりしました。

信仰復興

話は前後しますが、六年前の二〇一一年、母と一緒にイギリスに行く機会がありました。救世軍はブラズバンドが盛んなのですが、この年、世界の八つの救世軍プラスバンドが集結する国際的な音楽の祭典が開催されました。そこに母が行きたい、と、介助の練習も兼ねて、私に同行を求めたのです。



震えるほどの感動した、ロイヤル・アルバートホールでのコンサート (2011年)

ルパートホールに、総勢二百五十人からなるバンドの楽の音が響き渡りました。そして、世界中から集った約八千人もの人々が同じ神様を賛美している姿に、震えるほどの感動を覚えしました。(ここに、神様は働いておられる!)—この時が私の信仰復興となりました。その後は、再び、救世軍の小隊で礼拝を守る生活に戻り、現在に至っています。これまでの人生を振り返って、私が経験した一つ一つのことが今日に至るまでの必要な出来事だった、と思わされています。神様が私を導いて、神様を信じ従

そしてこれから

現在は、利用者の方の状況に合わせて、介護福祉士、看護師、理学療法士などの方々の協力を得て、旅行や外出介助の働きをおこなっています。ますます高齢化が進むこれから、この働きの需要は増えていくことでしょう。一人でも多くの方が、自由に行きたい所へ行き、楽しめる社会になってほしいと願っています。

私の好きな聖書の言葉は「神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました」(コリントの信徒への手紙一 1章27節)

です。神様がこのような私にも多くの協力者を与えてくださり、導いてくださっていることを覚えて、心から感謝しています。

(月島小隊(教会)所属)

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

裏、この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



各地からの収穫の便りと共に、実りの恵みをいただく季節となりました。救世軍では、この時期、豊かな実りを与えてくださる神様の愛に感謝しつつ、「救世軍感謝祭募金」をおこないます。救世軍の活動を通して、様々な人々のニーズに応えるために、信徒自らが献金するとともに、地域の商店や事業所、家庭を訪問して、募金をお願いしております。また、下記の最寄りの小隊、施設等で直接お預かりすることもできます。皆様のご協力をお願いいたします。

2016 年～2017 年前半 募金結果報告

Table with 2 columns: Year (2016, 2017) and Amount (円). Includes sub-rows for '克己週間' and '感謝祭'.

全国の救世軍小隊 (教会にあたる)

- 北海道連隊 (地区) 遠軽小隊 釧路小隊 帯広小隊 札幌小隊 函館小隊
関東東北連隊 (地区) 仙台小隊 浪江小隊 (現在休止中) 若松小隊 新潟小隊 前橋小隊 高崎小隊 桐生小隊 佐野小隊 熊谷小隊 長野分隊 (伝道所)
東京東海道連隊 (地区) 川口小隊 清瀬小隊 江東小隊 西新井小隊 上野小隊 神田小隊 京橋小隊 月島小隊 麻布小隊 渋谷小隊 杉並小隊 大森小隊 横浜小隊 静清小隊 浜松小隊 名古屋小隊
西日本連隊 (地区) 京都小隊 天満小隊 西成小隊 泉尾小隊 神戸小隊 岡山小隊 福山小隊 呉小隊 広島小隊 高松小隊 高知小隊 八幡小隊 福岡小隊 鶴橋分隊 塚本分隊

社会福祉施設

- 保育所 北海道 桑園保育所 菊水上町保育園 札幌市しせいかん保育園
栃木県 佐野保育園 (併設: 学童保育「佐野こどもクラブ」)
広島県 呉保育所
児童養護施設 東京都 機恵子寮 世光寮 大阪府 希望館 広島県 愛光園 豊浜学寮 (愛光園併設: 児童家庭支援センター「明日葉」)
婦人保護施設 東京都 婦人寮 新生寮
宿泊施設 (男子) 東京都 新光館
特別養護老人ホーム 東京都 恵泉ホーム 恵みの家(ユニットケア型)

病院

- 救世軍ブース記念病院 (ホスピス併設) 東京都杉並区和田 1-40-5 Tel 03-3381-7236
●救世軍清瀬病院 (ホスピス併設) 東京都清瀬市竹丘 1-17-9 Tel 042-491-1411



救世軍とは

プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十八の国と地域で福音を伝えています。

創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。一八六五年、東ロンドンの貧しい人々に神の愛を届けようと、物心両面からの救いを目指し、働きを始めました。そして、人々の様々なニーズに迅速にこたえるために、軍隊流の組織をとりました。

伝道者や信徒は制服を着用し、救世軍に属するクリスチャンであることを表明します。そして、礼拝を守るとともに、自分でできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。また、創立時よ

りアルコール依存症で苦しむ人々の回復を支援していることから、アルコール抜きのライフスタイルをとっています。

日本で救世軍の働きが始まったのは、一八九五(明治28)年。今年、百二十二年を迎えました。開設当初から、刑を終えて出てきた人々の保護や職業訓練、災害被災者支援、廃娯運動の推進、子どもの保護など、社会福祉史における先駆者としての役割を果たしてきました。現在は、下記の小隊(教会にあたる)や分隊(伝道所にあたる)、施設、病院で働きを進めています。

国際的な組織の救世軍は、その協力体制をフルに生かして、災害被災者支援、人身取引被害者支援や開発途上国の自立支援、フェアトレード(公正貿易)の推進なども積極的に取り組んでいます。

映画『地の塩 山室軍平』 公開決定記念 シンポジウム

～「愛の人」山室軍平の誕生秘話～ 9月22日(金) 午後7時～ 救世軍山室軍平記念ホール(東京・神保町) 登壇者: 映画監督 東條政利氏 同志社大学社会学部教授 木原活信氏 主演俳優 森岡龍氏 (予定) 入場無料

- バザー場……東京都杉並区和田 2-21-2 オープン 毎週土曜 9～13時半 Tel 03-5860-2992
●江東出張所……東京都墨田区太平 4-11-3 オープン 毎週土曜 10～15時 Tel 03-6261-5704

―両病院とも、(財)日本医療機能評価機構認定病院です 清瀬病院は、病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)